

津山市の歴史や文化、観光などをテーマにした「第3回美作の国つやま検定」(津山商業高商業クラブ主催、山陽

新聞社共催)が11日、津山市山北の同高で行われ、市内外の36人が地域性あふれる難問に挑んだ。(久万真毅)

第3回美作の国つやま検定

歴史や文化 難問挑む

真剣な表情で試験に臨む受験者



県内外から36人受験

検定は歴史、史跡、寺社、伝統行事、美術、観光など多分野から三者択一式の計50問。同高商業クラブの生徒が問題を作成し、今回は美作国建国1300年に関する出題が3割以上を占めた。

熊本、石川県など県外のほか、津山、岡山、美作市などの男女が受験。「津山城の城郭全体の面積は」や「美作国建国1300年記念として開発されたスイーツの名称は」といった問題に真剣な表情

津山商高生が問題作成

で取り組んでいた。

35問以上正解すれば合格で検定認定証を贈る。合格者は25日にインターネットなどで発表する。

検定は津山を深く理解し、地域の魅力を次世代に語り継いでもらおうと、津山商工会議所青年部が2009年に実施した「津山ふるさと検定」を引き継ぐ形で開催。地域活性化活動に対し、津山市が助成する公募提案型協働事業に採択されている。